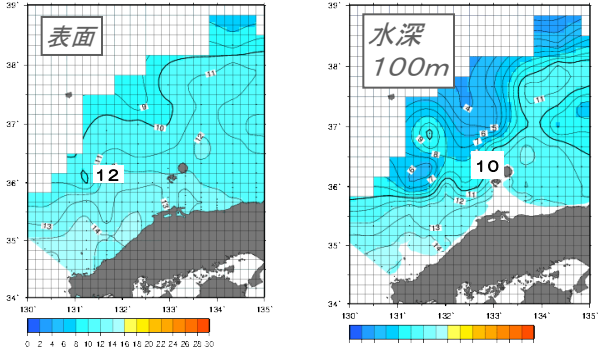


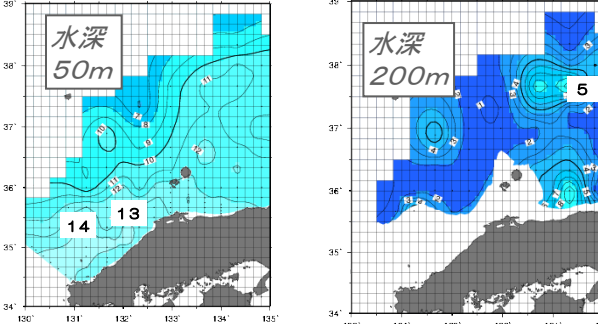
発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)

試験船による海洋観測結果 (3月上旬)



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は12℃前後で先月より1℃低下し、平年並から1℃高めとなっています。

鳥取沖は13℃前後、隠岐諸島周辺は11℃前後で先月とほぼ同値でした。



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は12℃前後で先月より1℃低下し、平年並から1℃高めとなっています。

兵庫沖(N36°付近)と隠岐北東(37°30'付近)に暖水塊が認められます。

3月上旬の水塊配置と対馬暖流



- ・島根沖冷水: 隠岐北西方向で張り出しが強い傾向にあります。
 - ・沖合の対馬暖流: 島根沖から隠岐北方を通り、兵庫県沖で北方への流れと東方への流れに分枝しています。
- ※県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、ぜひご利用ください。

水産試験場

中海水産資源回復調査の実施状況

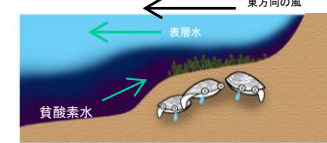


水産試験場では平成25年度より中海(米子市大崎地区)で魚類の生息状況等の調査を実施しています。中海での漁業振興を目的に調査を実施して3年が経過してきたところ、造成浅場内には5~7月頃に近年漁獲量が減少しているマハゼの幼魚や、ススキ、クロダイ、ヒラメなどの幼稚魚(42種)が生息していることがわかりました。昨年度はこの造成浅場内で多く見られるマハゼの幼魚を6月頃に採集し畜養試験を試みています。また、鳥取県水産技術センターからアサリの稚貝の提供を受け、造成浅場内に移植し増殖を試みてきました。しかし、夏季以降に生残が悪くなる結果がみられましたので、その原因と考えられる貧酸素化(水域の酸素濃度が低下する減少)のメカニズムを解明することを試みています。将来的には中海産マハゼ・アサリ等を地元の食材として普及できないか今後も調査・検討を行っています。

- 全長20cm程度に生育した畜養マハゼ**
- ・甘みがある白身で美味
 - ・飼育水槽内で噛み合いが起こるため今後対策が必要

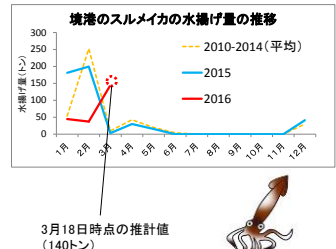
造成浅場内の貧酸素化のメカニズム

- ・東方向の風が吹くことで貧酸素化しやすい
- ・貧酸素化するのには主に夜間
- 東方向の風により湖底部の貧酸素水が湧昇しやすく、日中は水温差があり貧酸素水が湧昇しにくいことが考えられるが、今後も原因の解明が必要



スルメイカ漁況情報

今年に入り、1月、2月と水揚げが例年比べて少なかったスルメイカですが、3月に入ってから境港で継続的に水揚げがありました。サイズは20、25入りの大型個体(冬生まれ群)が主体となっています。漁期が遅れた要因としては例年と比較して1月、2月は山陰沖の水温が高めに推移したことが考えられます。今後は、水温の上昇とともに北上してくる春イカの漁獲が期待されます。



平成27年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

栽培漁業センター



キジハタとマサバのPRを行いました



3月13日(日)~16日(水)にマレーシアのレストランなどにおける鳥取県産 農林水産物の活用促進と高級食材としてのイメージの定着を図るため、クアラルンプールの高級レストランシェフを本県に招聘し、県内事業者との商談が行われました。

16日は栽培漁業センターにて、キジハタ栽培漁業やマサバ養殖の説明を行い、キジハタとマサバの刺身やキジハタの中華風蒸し料理なども試食していただきました。いずれも手ごたえを得ることができ、貴重な機会となりました。

説明の様子

マサバの試食

キジハタの試食

鳥取県の水産物の販路拡大にご期待ください。

共和水産株式会社

代表取締役社長 白須 邦夫
〒684-0006 鳥取県境港市栄町66番地
TEL 0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530

